

医学教育分野別評価
大分大学医学部医学科
年次報告書
2025 年度



国立大学法人

大分大学

医学教育分野別評価 大分大学医学部医学科 年次報告書 2025 年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和 3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.32

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36

はじめに

本学医学部医学科は、令和 3 年度に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2023（令和 5）年 2 月 1 日より 7 年間の認定を受けた。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36 を踏まえ、2024（令和 6）年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024（令和 6）年 4 月から本報告書提出年度である 2025（令和 7）年 3 月までを対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域 1 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、すでにすべての教員が教育に関わる委員会（会議体）に参加する仕組みを策定済みである。2024 年度は、すべての教員が教育に関する審議・検討に参加する体制を維持しつつ、教職員のみならず、学生及び医療と保健に関わる関係者に対して、学部の使命や学修成果を周知する機会を拡大した。

1.1 使 命

基本的水準：適合

医学部は、

- 学部の使命を明示しなくてはならない。(B 1.1.1)
- 大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者にその使命を示さなくてはならない。(B 1.1.2)
- 使命のなかに、以下の資質・能力を持つ医師を養成するための目的と教育指針の概略を定めなくてはならない。
 - 学部教育としての専門的実践力(B 1.1.3)
 - 将来さまざまな医療の専門領域に進むための適切な基本(B 1.1.4)

- 医師として定められた役割を担う能力(B 1.1.5)
- 卒後の教育への準備(B 1.1.6)
- 生涯学習への継続(B 1.1.7)
- 使命に社会の保健・健康維持に対する要請、医療制度からの要請、およびその他の社会的責任を包含しなくてはならない。(B 1.1.8)

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- 「大分大学医学部の理念」、「大分大学医学部医学科の教育理念と目的」、「大分大学医学部卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の位置づけや関係性をより明確にすべきである。
- 大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者に対して、学部の使命をさらに周知し、理解を求めるべきである。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

医学部の使命を達成すべく、その具体的指針として「医学部ビジョン 2024」を定め、そのうちの教育の領域において、医学部の教育ビジョン・学科共通の到達目標、さらに各学科の到達目標、取り組むべき課題を具体的に明示し、実行している。[資料 01]

今後は、「大分大学医学部の理念」、「大分大学医学部医学科の教育理念と目的」、「大分大学医学部卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」がこれからの社会が要請する大分大学医学部の使命と合致したものなのか、そうでないのであれば、どうあるべきか、について大学の構成員である教職員、学生のみならず、医療と保健に関わる分野の関係者とも協議する場を設ける予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 01 （部外秘）医学部ビジョン 2024

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 使命と学修成果の策定には、教育に関わる主要な構成者が参画しなければならない。(B 1.4.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・使命と目標とする学修成果について見直しを行う際には、その作成段階から学生を含む教育に関わる主要な構成者が積極的に参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

使命および目標とする学修成果については、令和 8 年度までに大幅な見直しを行う予定であり、その実現に向けたさまざまな取り組みが進められている。そのためには、教育に関わるすべての教職員が、それぞれの立場で現状を把握したうえで、未来のあるべき姿を提言することが求められる。

「使命と目標とする学修成果を見直す際には、その作成段階から学生を含む教育に関わる主要な構成員が積極的に参画すべきである」との指摘をふまえ、前年度（令和 5 年度）には、基幹教員として医学教育に携わる助教以上の全教員が、教育に関する委員会（会議体）に参加する仕組みが構築された。令和 6 年度には、この体制に基づき、すべての教員が医学部の各種委員会における審議・検討に参画している。〔資料 02〕

教育に関する特記すべき会議体としては、教育評価専門委員会および医学教育カリキュラム委員会が挙げられる。これらの委員会は、学生代表を含む構成員によって運営されている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 02 大分大学医学部 会議・委員会一覧（抜粋）

2. 教育プログラム

現在の医学教育プログラムは、知識の習得にとどまらず、臨床現場における実践力の育成、そして科学的思考に基づく診療能力の涵養を目指して発展を続けている。しかしながら、いくつかの重要な課題が明らかとなっており、それらに対して戦略的かつ段階的な改善が求められている。

領域 2 における複数の指摘をうけて、現在、多くの課題に取り組んでいる。とりわけ、アクティブラーニングの導入と FD（ファカルティ・ディベロップメント）による教員支援、臨床実習における EBM 指導指針の整備と活用教材の開発、Pre-ORPhD プログラムの対象者拡大と研究機会の確保、行動科学教育の体系化と担当教員への共通理解の促

進、臨床実習の質保証のための評価ツール整備と診療科ごとの実習時間の見直し、カルテ記載の運用方針の統一と学生の診療記録への参画推進、シミュレーション教育拠点の強化と OSCE との接続強化、カリキュラム統合の実質化に向けた教育委員会間の連携強化については、優先的に取り組む課題である。

2.1 プログラムの構成

基本的水準：適合

医学部は、

- カリキュラムを明確にしなければならない。(B 2.1.1)
- 学生が自分の学修過程に責任を持てるように、学修意欲を刺激し、準備を促して、学生を支援するようなカリキュラムや教授方法/学修方法を採用しなければならない。(B 2.1.2)
- カリキュラムは平等の原則に基づいて提供されなければならない。(B 2.1.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・すべての修学期間において医学・医療英語教育を実施している。

改善のための助言

- ・能動的学修の要素をさらに取り入れる等、学修意欲を刺激し、準備を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「能動的学修の要素をさらに取り入れる等、学修意欲を刺激し、準備を促すべきである。」という指摘をうけ、講義中心の受動的学修からの脱却を図り、事前学修や課題解決型学習、ピアラーニングなどを通じて、学修の準備性と自律性を育てる必要がある。平成6年度には、学生の学修意欲をさらに高めるために能動的学修（アクティブラーニング）の導入を推進した。アクティブラーニングを推進するためには、教員自らがその意識をもって教育方法を模索していく必要がある。令和7年3月開催の教務委員会では、令和7年度シラバスチェックについて議論され、年度末までの教務委員会が指名した委員により、医学科シラバスの包括的なレビューが実施された。レビューの中では、シラバス内にアクティブラーニングの有無をチェックしたうえで、アクティブ・ラーニングを実施していない場合は、実施を検討するよう促した。[資料 03]

改善状況を示す根拠資料

2.2 科学的方法

基本的水準：適合

医学部は、

- カリキュラムを通して以下を教育しなくてはならない。
 - 分析的で批判的思考を含む、科学的手法の原理(B 2.2.1)
 - 医学研究の手法(B 2.2.2)
 - EBM(科学的根拠に基づく医学)(B 2.2.3)

特記すべき良い点（特色）

- 4年次で約3ヶ月間の「研究室配属」によって学生の研究マインドを涵養している。
- 臨床薬理学の教育で臨床実習前の EBM 教育が充実していることは評価できる。

改善のための助言

- 臨床実習の現場において、EBM 教育を体系的に実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学では、臨床薬理学の講義に加え、独自の EBM 実習を展開しており、前回の医学教育分野別評価でも高く評価された。現在もこの実習は継続されており、学生に EBM の基本的枠組みと実践力を体系的に育成している。加えて、附属病院臨床薬理センターによるクリニカルクラークシップでは、病歴聴取や身体診察から臨床的疑問を導き出し、症例検討、文献レビュー、原著論文の批判的吟味を通じて情報の質を見極める力を養っている。さらに、仮説に基づく臨床研究プロトコルを作成・発表させることで、診療と研究を架橋する思考を体得させている。こうした実践的かつ統合的な取り組みは、科学的思考に基づいた診療能力を涵養する優れた EBM 教育モデルとして他大学にも紹介され、本学教員が招待講演を行うなど、対外的にも高く評価されている。また、総合内科・総合診療科の臨床実習においても EBM による臨床判断、EBM の 5 ステップについてのレクチャーが行われ、倫理的葛藤についても取り扱っている。

これらの教育活動に加えて EBM 教育の一環として、複数の研究室に配属された学生に対し、EBM に関連した研究活動および学会発表の指導を行っている。腫瘍内科学講座および臨床薬理学講座に配属された学生については、研究の立案からデータ解析、抄録作成、学会発表に至るまでの過程を継続的に支援し、それぞれが優秀演題賞および地方会会長賞を受賞する成果につながった。また、総合診療・総合内科学講座に配属された 3 名の

学生に対しても、全国学会での発表指導を実施した。特に、消防局や大分県が公開するオープンデータベースを活用した生態学的研究においては、EBMに基づいた研究設計や交絡因子の調整手法、統計解析の方法論などを重点的に指導し、学生の科学的思考力とエビデンス創出力の育成を図った。これらの取り組みは、EBM教育の実践として、診療と研究の統合を体験的に学ばせる貴重な機会となっている。〔資料 04〕

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 04 臨床研究プロフェッショナル育成のための医学教育フォーラム

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・ カリキュラムに大学独自の、あるいは先端的な研究の要素を含むべきである。(Q 2.2.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 「Pre-ORPhD プログラム」をより拡充することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

将来の研究者育成を視野に入れた「Pre-ORPhD プログラム」のさらなる拡充が求められている。よって早期から研究マインドを育て、科学的探究心を支援する教育環境の整備は不可欠である。先に述べた臨床薬理クラークシップでは、学生が臨床的疑問を自ら発見し、問題意識を深める体験を通じて、リサーチマインドが自然に育まれている。加えて、本学では全学生が参加する研究室配属を通じて、実験計画の立案、データ解析、学会発表など、実際の研究プロセスに主体的に関与する機会を提供している。これまでに、臨床薬理学講座や腫瘍内科学講座、総合診療・総合内科学講座に配属された学生が、優秀演題賞や地方会会長賞を受賞するなど、顕著な成果をあげており、これらの経験は他の学生にとっても大きな刺激となっている。このような成功体験は、研究への意欲を高め、将来のキャリア形成にも良い影響を与えており、診療と研究を架橋する人材の育成に資するものとなっている。

今後は、こうした取り組みを「Pre-ORPhD プログラム」と有機的に連携させることで、より多くの学生が学部段階から科学的思考と研究への関心を育み、大学院教育や研究者養成へとつながる流れを形成できると期待される。

なお、研究マインドを育てるうえで研究室配属の充実は不可欠であり、本年度は「研

研究室配属部会」が中心となって計画・運営を行った。学生による研究成果の発表会では、評価方法について学生の意見も踏まえた見直しを行い、実施方法を改善した。これにより、研究活動に対する学生の主体性と達成感をさらに高める教育環境の整備が進められている。〔資料 05〕〔資料 06〕

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 05 令和 6 年度第 1 回研究室配属部会議事概要
- ・ 資料 06 令和 6 年度第 2 回研究室配属部会議事概要

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：適合

医学部は、

- ・ カリキュラムに以下を定め、実践しなければならない。
 - ・ 行動科学(B 2.4.1)
 - ・ 社会医学(B 2.4.2)
 - ・ 医療倫理学(B 2.4.3)
 - ・ 医療法学(B 2.4.4)

特記すべき良い点（特色）

- ・ 1 年次～4 年次にわたり医療倫理学カリキュラムを定め、実施していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 行動科学のカリキュラムをより体系的に構築し、教育に関わる主な関係者に明示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和 7 年 1 月 31 日、心理学・行動科学教育カリキュラムの今後の方針に関する打合せを実施した。本打合せでは、現在の授業運営の課題や改善点について意見を交換し、今後の授業内容の見直しや体制の整備に向けた方向性について確認を行った。特に、学生の理解度を高めるための講義構成の工夫や評価方法の見直しについて具体的な検討がなされた。本議論をもとに、今後行動科学教育のワーキンググループにおいて関係者との調整を行いながら、行動科学教育の質の向上を図っていく予定である。その行動科学教育のワーキンググループには、精神科医師が新たに参画し、臨床医学に繋がるカリキュ

ラムとなるよう、検討を開始した。[資料 07]

1 年次生対象の早期体験実習 II でプロフェッショナルリズム教育を行い、その中で、学生が自ら「効果的なプロフェッショナルリズム教育プログラムを考える」というテーマで SGD を行った。これは各グループの発表に対して、他の学生がそのプログラムにどれくらいの予算配分が可能か、という方法で相互評価する企画であり、学生の参加意欲が高いものであった。学習者である学生自身が効果的なプログラムを考える作業を通じて、プロフェッショナルリズムの本質を考える機会となったと考えられた。[資料 08]

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 07 心理学・行動科学カリキュラム検討の打ち合わせ（令和 6 年度第 1 回）記録
- ・ 資料 08 プロフェッショナルリズム講義資料

質的向上のための水準： 適合

医学部は、

- ・ 臨床医学教育のカリキュラムを以下に従って調整および修正すべきである。
 - ・ 科学、技術および臨床の進歩(Q 2.5.1)
 - ・ 現在および、将来において社会や保健医療システムにおいて必要になると予測されること(Q 2.5.2)
- ・ すべての学生が早期から患者と接触する機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参加を深めていくべきである。(Q 2.5.3)
- ・ 教育プログラムの進行に合わせ、さまざまな臨床技能教育が行われるように教育計画を構築すべきである。(Q 2.5.4)

特記すべき良い点（特色）

- ・ 早期体験実習や 2 週間の地域医療実習で、学生が地域に滞在し、医療のみならず保健・介護・福祉、住民の生活を含めた実習を行っていることは評価できる。
- ・ サージカルラボセンター（SOLINE）でのウェットラボ・ハンズオン・トレーニング等を通して最前線の医療技術を体験する機会を提供していることは評価できる。

改善のための 示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

COVID19 のパンデミックで顕在化した、行動制限や医療資源の配分などの公衆衛生学的課題や新規医薬品開発のあり方などを医療倫理学の講義の題材として採り入れた。[資料 09]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 09 医療倫理学講義資料

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 臨床医学について、学生が以下を確実に実践できるようにカリキュラムを定め実践しなければならない。
 - ・卒業後に適切な医療的責務を果たせるように十分な知識、臨床技能、医療専門職としての技能の修得(B 2.5.1)
 - ・臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間中に十分持つこと(B 2.5.2)
 - ・健康増進と予防医学の体験(B 2.5.3)
- 主要な診療科で学修する時間を定めなくてはならない。(B 2.5.4)
- 患者安全に配慮した臨床実習を構築しなくてはならない。(B 2.5.5)

特記すべき良い点（特色）

- ・全員が予防医学を体験できるプログラムが実施されている。
- ・職員に対して実施している医療安全管理セミナーを学生にも受講させ、最新の医療安全に関連する情報を提供し、教育している。

改善のための助言

- ・主要な診療科で十分な臨床実習期間を確保すべきである。
- ・学生による医行為の実施状況を把握し、臨床技能修得の機会を十分に確保すべきである。
- ・診療参加型臨床実習を充実させるために、全診療科において、学生によるカルテ記載を確実に行うべきである。
- ・シミュレーション教育を充実させて、より患者安全に配慮した臨床実習を構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学医学部では、地域医療に貢献する医師養成を教育の柱の一つとして掲げており、その実現に向けた教育戦略の検討を継続的に行っている。その一環として、令和6年5月25日（土）に、FD企画として「大分の地域医療を支える医学教育戦略を考える会」を開催した。

本FDでは、富山大学医学教育学講座の高村昭輝教授を講師としてお招きし、「地域医療に根ざした医師養成と医学教育の構造的再設計」をテーマに基調講演をいただいた。講演では、地域枠制度、医学生の地域志向性、診療参加型臨床実習の設計といった観点から、全国的な課題と先進的な取り組みが紹介され、出席者にとって大きな示唆を得る機会となった。

後半のグループディスカッションでは、医学教育に関わる教員・執行部メンバーと教育関連病院幹部が一堂に会し、学生の地域志向性を高める教育方略、臨床実習と地域医療体験の融合、地域医療に携わるロールモデルの提示方法などについて、活発な意見交換がなされた。

本会を通じて、本学が取り組むべき教育課題が共有され、今後のカリキュラム改善や地域連携教育の推進に向けた具体的な方向性が見出された。特に、診療参加型臨床実習のなかで地域医療の実態を経験させる教育設計の重要性が確認され、今後の教育方針の再検討に資する有意義な機会となった。〔資料10〕

今後は、今回のFDで得られた知見を踏まえ、カリキュラム委員会を中心にカリキュラムの再構築や地域医療連携の強化を図り、地域のニーズに応える医師養成の実現を目指していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料10 「大分の地域医療を支える医学教育戦略を考える会」式次第

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、カリキュラムで以下のことを確実に実施すべきである。

- ・関連する科学・学問領域および課題の水平的統合(Q 2.6.1)
- ・基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合(Q 2.6.2)
- ・教育プログラムとして、中核となる必修科目だけでなく、選択科目も、必修科目との配分を考慮して設定すること(Q 2.6.3)
- ・補完医療との接点を持つこと(Q 2.6.4)

特記すべき良い点（特色）

- ・ 第Ⅲ修学期に臓器別コースとして、統合型の 15 コースを設置している。

改善のための示唆

- ・ カリキュラムの水平的・垂直的統合をより推進し、実質的なものとするのが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育モデル・コア・カリキュラムでも指摘されている「社会の視点」の教育の推進のために、教養教育部会で社会科学系科目の設置の検討を始めた。

令和 6 年度 6 年生アンケートを実施し、学生の意見を解析した。その中にはカリキュラムの垂直統合および水平統合の推進に関係する意見が複数見られた。垂直統合に関連する意見として、「地域実習を低学年の頃から経験したかった」「2年生のカリキュラムを 1 年生にスライドした方が良い」「早期に医学に触れたかった」といった声が挙げられ、基礎から臨床への段階的な学修機会をより早くから確保してほしいという要望が読み取れる。また、「CBT や Stage1 を早めて、6 年次の実習科を増やしたい」との意見もあり、学年を超えた教育の接続性を高める工夫が求められていることが分かる。さらに、「上級生が下級生に教える機会があると良い」といったピア・ティーチングに関する提案もあり、学年間の連続的な学修支援への期待がうかがえる。

一方、水平統合に関する指摘としては、「病理は診療科ごとに学んだ方が良い」「国試頻出の手技が実習で均等に見られるようにしてほしい」など、診療科や科目間の教育内容の連携不足に対する懸念が寄せられた。とくに臨床実習では、学修内容や経験のばらつきが学習機会の不均等につながっており、教育内容や評価指標の標準化の必要性が示唆された。これらの学生の声は、単なる講義の並列ではなく、科目・学年をまたいだ統合的な学修設計の重要性を示しており、今後のカリキュラム改善において、基礎・臨床・地域医療を連続的・横断的に学べる環境整備の必要性が強く示唆される。垂直・水平両面での実質的な統合を推進することが、学修の質と満足度の向上に直結するものと考えられる。〔資料 11〕

これらの意見を念頭において、カリキュラム委員会でカリキュラムの改善について検討中である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 11 2024 年度学生病棟実習（クリニカルクラークシップ）、医学教育に関するアンケート調査（抜粋）

2.7 教育プログラム管理

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 学修成果を達成するために、学長・医学部長など教育の責任者の下で、教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つカリキュラム委員会を設置しなくてはならない。(B 2.7.1)
- カリキュラム委員会の構成委員には、教員と学生の代表を含まなくてはならない。(B 2.7.2)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会を明確にし、その委員会に学生の代表を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善済み。今後は、学生との良好なコミュニケーションをとりながら、学生の積極的な参画を推進していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- カリキュラム委員会を中心にして、教育カリキュラムの改善を計画し、実施すべきである。(Q 2.7.1)
- カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むべきである。(Q 2.7.2)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「カリキュラム委員会に広い範囲の教育の関係者の代表を含むべきである。」という指摘に対しては、現在対応できていない。次年度をめぐり、他大学の教育関係者あるいは本学の多職種（例、看護師、薬剤師など）がカリキュラム委員会に参画する方法について検討に入る予定。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

3. 学生の評価

2024年度は作成したシラバス（案）を教務委員会でピア・レビューし、評価法が確実に記載されていることを確認した。回復試験と進級基準について、規程の改訂について審議を行い、1月に規程を改訂した。今後、シラバスに記載された内容と、実際の評価に齟齬がないかなども確認する仕組みについて、検討する。

全学の「教育マネジメント機構教学マネジメント室内部質保障委員会」において行っている、卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」の項目を一部変更した。集計結果の検証を行い、自己評価が低い項目について、教育方法の検討を行う予定である。

現在行われている科目ごとの卒業試験について、令和7年度の継続審議となった。

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 学生の評価について、原理、方法および実施を明確にし、開示しなくてはならない。開示すべき内容には、合格基準、進級基準、および追再試の回数が含まれる。(B 3.1.1)
- 知識、技能および態度を含む評価を確実に実施しなくてはならない。(B 3.1.2)
- さまざまな評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用しなくてはならない。(B 3.1.3)

- 評価方法および結果に利益相反が生じないようにしなければならない。(B 3.1.4)
- 評価が外部の専門家によって精密に吟味されなければならない。(B 3.1.5)
- 評価結果に対して疑義申し立て制度を用いなければならない。(B 3.1.6)

特記すべき良い点（特色）

・「大分大学教育マネジメント機構」、「教学マネジメント室」により、成績分布に偏りがある科目について評価の妥当性を検証している。

改善のための助言

- ・すべての科目について、シラバスに評価方法を確実に記載すべきである。
- ・「回復試験」を含めた履修修了の認定の方法を規則に定め、適切な方法で開示すべきである。
- ・知識、技能および態度の領域に合わせた適切な評価を、それぞれ確実に行うべきである。
- ・評価が教育と評価を担当する当事者以外の専門家（学内外を問わない）によって精密に吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

前年度、作成したシラバス（案）を教務委員会でピア・レビューする体制を強化し、全科目の評価法をシラバス内に確実に記載することとしたが、今年度も継続して教務委員会でのピア・レビューを行い、評価法が確実に記載されていることを確認した。[資料 12]

回復試験と進級基準における規程の改訂について審議を行い、令和 7 年 1 月に規程を改訂した。[資料 13] [資料 14] 今後、シラバスに記載された内容と、実際の評価に齟齬がないかなども確認する仕組みについて、検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 12 令和 6 年度第 15 回教務委員会議事概要
- ・資料 13 令和 6 年度第 2 回教務委員会議事概要
- ・資料 14 令和 6 年度（2024 年度）第 12 回医学部教授会議事録

質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- 評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示すべきである。(Q 3.1.1)
- 必要に合わせて新しい評価方法を導入すべきである。(Q 3.1.2)

- 外部評価者の活用を進めるべきである。(Q 3.1.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・知識、技能、態度のすべての領域の評価について、信頼性と妥当性を確実に検証することが望まれる。
- ・ポートフォリオ評価を効果的なものとなるように改善することが望まれる。
- ・mini-CEX、360度評価などの新しい評価法をより積極的に活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床実習の現場における評価について、今後検討が必要であり、令和7年度に検討を開始する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 評価の原理、方法を用いて以下を実現する評価を実践しなくてはならない。
 - ・ 目標とする学修成果と教育方法に整合した評価である。(B 3.2.1)
 - ・ 目標とする学修成果を学生が達成していることを保証する評価である。(B 3.2.2)
 - ・ 学生の学修を促進する評価である。(B 3.2.3)
 - ・ 形成的評価と総括的評価の適切な比重により、学生の学修と教育進度の判定の指針となる評価である。(B 3.2.4)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・「卒前医学教育アウトカム」の項目それぞれについて確実な評価を行い、個々の学修成果が達成されていることを保証すべきである。

- ・形成的評価の実施状況を把握し、総括的評価との適切な比重を定めて、実施すべきである。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

全学の「教育マネジメント機構教学マネジメント室内部質保障委員会」において行っている、卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」の項目を一部変更した。集計結果の検証を行い、自己評価が低い項目について、教育方法の検討を行う予定である。[資料 15]

アウトカムの評価について、評価方法の信頼性と妥当性を検証し、自己評価のみでなく、確実に評価を行うことが今後の課題である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 15 卒業時調査 2024（教育・学修成果の検証アンケート）

質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- 基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム(教育)単位ごとに試験の回数と方法(特性)を適切に定めるべきである。(Q 3.2.1)
- 学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うべきである。(Q 3.2.2)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・すべての科目において、試験後に問題を公開し、解説などによってフィードバックを行うことが望まれる。
- ・ポートフォリオなどを活用し、臨床実習におけるフィードバックを充実させることが望まれる。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

現在行われている科目別の卒業試験について、統合試験として行うかどうか、医学教育カリキュラム委員会で検討した。科目別試験・統合試験のメリット・デメリットについて学生委員からの意見を聴取、統合試験について、教務委員会及び臨床医学部会と情報共有を行い、再度医学教育カリキュラム委員会で議論することとなった。[資料 16]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 16 令和 6 年度第 1 回医学教育カリキュラム委員会議事概要

4. 学 生

医学部入試委員会は、アドミッション・ポリシー（AP）と整合する学生像を再確認し、選抜方法の改善に着手した。また、編入学のアドミッション・ポリシー（AP）と入学後の学修成果が適切かどうかを継続的に検証している。地域医療を担う医師を確保するため、文部科学省に申請した地域枠の臨時定員増が承認され、地元出身者向けに「高度医療人育成プログラム」も開始した。今後も大分県の地域医療に従事する医師を確保するための定員確保を継続する。

チューター制度は見直し、各講座が面談結果を共有フォームに入力、追加支援が必要な学生を医学教育センターが抽出して定期面談を行う体制へと強化された。さらに、4年生には「キャリアの日」を設け、医学教育センター・卒後臨床研修センター・女性医療人キャリア支援センターが連携してキャリア教育を実施し、5年生女子学生を対象としたキャリアパス相談会では、卒業後の進路やライフプランの両立について支援を行った。チューター面談におけるキャリアガイダンスを継続する。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

医学部は、

- ・ 学生の選抜方法についての明確な記載を含め、客観性の原則に基づいて入学方針を策定し、履行しなければならない。(B 4.1.1)
- ・ 身体に不自由がある学生の受け入れについて、方針を定めて対応しなければならない。(B 4.1.2)
- ・ 国内外の他の学部や機関からの学生の転編入については、方針を定めて対応しなければならない。(B 4.1.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

医学部入試委員会において、選抜方法について入学者の基本的な学力、あるいは求められる学生像がアドミッション・ポリシー（AP）に適合しているか検討を開始した。

[資料 17]

医学部入試委員会において、編入学のアドミッション・ポリシー（AP）と編入学学生のアウトカムが適切かどうか検討を行った。入学後の成績等の分析を必要とすることから継続審議とした。 [資料 18]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 17 令和 6 年度第 2 回医学部入試委員会議事概要
- ・資料 18 令和 6 年度第 6 回医学部入試委員会議事概要

質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- 選抜と、医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力との関連を述べるべきである。(Q 4.1.1)
- アドミッション・ポリシー(入学方針)を定期的に見直すべきである。(Q 4.1.2)
- 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用すべきである。(Q 4.1.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・入学決定に対する疑義申し立て制度を、受験生に公開することが望まれる。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

編入学のアドミッション・ポリシー（AP）や求められる学生像を医学部入試委員会において検討した。変更の必要性について継続的に検討することとした。 [資料 18]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 18 令和 6 年度第 6 回医学部入試委員会議事概要

4.2 学生の受け入れ

基本的水準：適合

医学部は、

- 教育プログラムの全段階における定員と関連づけ、受け入れ数を明確にしなければならない。(B 4.2.1)

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療を担う医師確保のため、文部科学省に地域枠に係る臨時定員増の申請を行い承認された。地元出身者枠入学生への教育について高度医療人育成プログラムを開始した。[資料 19] [資料 20] [資料 21]

改善状況を示す根拠資料

- 資料 19 医学部の収容定員の増加について（通知）
- 資料 20 令和 6 年度第 3 回医学科地元出身者枠プログラム WG 議事概要
- 資料 21 医学科地元出身者枠学生 アルメイダ病院実習

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 他の教育関係者とも協議して入学者の数と資質を定期的に見直すべきである。そして、地域や社会からの健康に対する要請に合うように調整すべきである。(Q 4.2.1)

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- 地域や社会からの要請に基づいて、地域枠・地元出身者枠を調整している。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域枠 13 人（定員 3 人＋臨時定員増 10 人）、地元出身者枠 10 人の入試枠確保を継続している。〔資料 22〕地域医療に従事する医師を確保するための定員を今後も継続して確保する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 22 令和 7 年度(2025 年度) 入学試験実施状況（総括表）

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準：適合

医学部および大学は、

- 学生を対象とした学修支援やカウンセリングの制度を設けなければならない。(B 4.3.1)
- 社会的、経済的、および個人的事情に対応して学生を支援する仕組みを提供しなければならない。(B 4.3.2)
- 学生の支援に必要な資源を配分しなければならない。(B 4.3.3)
- カウンセリングと支援に関する守秘を保障しなければならない。(B 4.3.4)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・チューター制度をさらに活性化させ、成績不振学生への支援を充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

色覚異常の学生に対して、配付資料や試験等の際の色彩配慮を実施することについて医学部教務委員会で審議・承認し、教授会で報告した。〔資料 23〕〔資料 24〕〔資料 25〕〔資料 26〕

チューター制度を見直し、これまでは各講座の長のみが行えるとしていた学生への面談を含む対応について、各講座のスタッフ(助教以上の教員)による対応も可とすることで、学修状況のみでなく、学生が抱えている社会的、経済的、個人的な悩み等に対しても相談に乗ることが可能な、より学生に寄り添ったサポートができる体制を整えた。また、面談結果をフォームに入力し、学務課へ提出し、サポートが必要な学生は、医学教育センターが定期的に面談を追加することになった。〔資料 27〕

3年に1回実施する「学生生活実態調査」を今年度実施し、令和7年度中に集計、分析を行う予定である。〔資料28〕

今後は成績不振学生への支援を行う学修支援部会において、低学年に対する支援を行うことを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料23 国立大学法人大分大学における障害を理由とする差別の解消の推進に関する規程
- ・資料24 大分大学身体等に障がいのある学生の支援委員会規程
- ・資料25 合理的配慮提供に関する手続きマニュアル
- ・資料26 令和6年度第4回教務委員会議事概要
- ・資料27 令和6年度医学科生の面談について
- ・資料28 2024年度（令和6年度）学生生活実態調査の実施について

質的向上のための水準：適合

医学部および大学は、

- 学生の学修上の進捗に基づいて学修支援を行うべきである。(Q 4.3.1)
- 学修支援やカウンセリングには、キャリアガイダンスとプランニングも含めるべきである。(Q 4.3.2)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・チューターによるカウンセリング等に、キャリアガイダンスとプランニングを含めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

チューターとの面談に、学修上不安な点などを聞き取るようにフォームを作成した。

〔資料27〕

4年生に対し、「キャリアの日」を設け、医学教育センター、卒後臨床研修センター、女性医療人キャリア支援センターのそれぞれの教員が協働し、種々のキャリアの卒業生の話、将来のキャリアやライフに関するロールプレイ等を行った。また5年生の女子学生に対し、キャリアパス相談会を行い、卒業後の進路や両立に関する質問に複数の科に属する女性医師が回答した。〔資料29〕〔資料30〕

地元出身者枠で入学した学生に対し、卒前のプログラムとして、大分市医師会立アルメイダ病院での実習を実施した。学生のキャリアパスやモチベーション維持につながることから、来年度以降も実習を継続する。〔資料 20〕

チューターとの面談に、キャリアガイダンスを加えるよう、各チューターへ働きかけ、定期的な面談を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 27 令和 6 年度医学科生の面談について
- ・資料 29 2024 年 11 月 21 日（木）医学部医学科 4 年生「キャリア教育」
- ・資料 30 女性医療人キャリア支援センター NEWS LETTER Vol. 29
- ・資料 20 令和 6 年度第 3 回医学科地元出身者枠プログラム WG 議事概要

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 学生が以下の事項を審議する委員会に学生の代表として参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行しなければならない。
 - ・ 使命の策定(B 4.4.1)
 - ・ 教育プログラムの策定(B 4.4.2)
 - ・ 教育プログラムの管理(B 4.4.3)
 - ・ 教育プログラムの評価(B 4.4.4)
 - ・ その他、学生に関する諸事項(B 4.4.5)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・使命と教育プログラムの策定、学生に関する諸事項について審議する委員会に学生の代表が参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育カリキュラム委員会に、各学年の代表が参加し、カリキュラムに関する意見を述べた。〔資料 16〕

医学部祭を医学部祭実行委員会が企画し、実行した。〔資料 31〕

本学において、「その他、学生に関する諸事項を審議する委員会」が明確ではないため、組織の在り方について、検討を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 16 令和 6 年度第 1 回医学教育カリキュラム委員会議事概要
- ・資料 31 令和 6 年度第 5 回医学部学生生活委員会（メール会議）議事概要

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 学生の活動と学生組織を奨励すべきである。(Q 4.4.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・「ボランティア支援室」や「大分大学生き生き²プロジェクト“分大 Switch On”」等を通じて、学生のボランティア活動を支援している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

総合診療サークル OICOS の学生が、地域住民の健康相談を行う、「ひよっこドクターのほけんしつ」という取り組みを行い、医学教育センターと総合診療・総合内科学講座がサポートした。〔資料 32〕学生の活動に対する支援を今後も続ける。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 32 総合診療サークル OICOS の活動報告

5. 教 員

領域 5 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、大分大学医学部教員の選抜方針では研究業績評価における、該当論文の定義を明確化して基準を改訂した。教員業績は年 1 回の評価で継続的にモニタリングし、教育・研究・社会貢献のエフォートを詳細に把握しつつ、外部資金、とりわけ科研費の採択増を目指し、科研費獲得を経験している教員による「7人の侍プロジェクト」が若手教員へ申請書作成を指導する体制を構築した。あわせて研究支援体制も整備し、教員の研究・教育活動を総合的

に後押ししている。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準：適合

医学部は、

- 教員の募集と選抜方針を策定して履行しなければならない。その方針には以下が含まれる。
 - 医学と医学以外の教員間のバランス、常勤および非常勤の教員間のバランス、教員と一般職員間のバランスを含め、適切にカリキュラムを実施するために求められる基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員のタイプ、責任、バランスを概説しなければならない。(B 5.1.1)
 - 教育、研究、診療の役割のバランスを含め、学術的、教育的、および臨床的な業績の判定水準を明示しなければならない。(B 5.1.2)
 - 基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員の責任を明示し、その活動をモニタしなければならない。(B 5.1.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

選抜方針における、研究業績評価について、該当する論文の基準を明確にし、選考基準の改変を行った。[資料 33]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 33 医学部門における教員選考基準について（重要通知）

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 教員の募集および選抜の方針において、以下の評価基準を考慮すべきである。
 - その地域に固有の重大な問題を含め、医学部の使命との関連性(Q 5.1.1)

- ・ 経済的事項(Q 5.1.2)

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域課題の解決と国際貢献のための講座開設や教員募集と選抜を行っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

外部資金獲得件数、特に科研費の獲得増加を目指すため、科研費獲得を経験している教員から構成された「7人の侍プロジェクト」により、若い教員を主な対象として科研費書類作成を指導した。[資料 34]

「7人の侍プロジェクト」をより充実させ、論文支援部会の活動とともに、研究力向上に努める予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 34 科学研究費補助金獲得のための「7人の侍」プロジェクト

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 教員の活動と能力開発に関する方針を策定して履行しなければならない。その方針には以下が含まれる。
 - ・ 教育、研究、診療の職務間のバランスを考慮する。(B 5.2.1)
 - ・ 教育、研究、診療の活動における学術的業績の認識を行う。(B 5.2.2)
 - ・ 診療と研究の活動が教育活動に活用されている。(B 5.2.3)
 - ・ 個々の教員はカリキュラム全体を十分に理解しなければならない。(B 5.2.4)
 - ・ 教員の研修、能力開発、支援、評価が含まれている。(B 5.2.5)

特記すべき良い点（特色）

- ・ 具体的に定められた基準に基づく教員の業績評価を実施している。

改善のための助言

- ・ すべての教員の教育能力を向上させるために、教員の能力開発に関する方針を策定

し、履行すべきである。

- ・教員の職務や能力に合わせたFDを企画し、確実に受講させるべきである。
- ・各教員の教育へのエフォートについて、教育、研究、診療の職務間について医学部全体としてのバランスを考慮して決定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

研究業績の評価として、該当する論文の定義を明確化した。[資料 33]

研究支援体制が構築された。[資料 35]

年1回教員業績評価を行い、各教員の活動のモニタを継続している。[資料 36]

今後は教育能力開発のため、教員への向けたFDの充実を行う必要がある。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 33 医学部門における教員選考基準について（重要通知）
- ・資料 35 論文作成支援部会ポスター
- ・資料 36 国立大学法人大分大学大学教員等評価実施細則

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 教員の活動と能力開発に関する方針を策定して履行しなければならない。その方針には以下が含まれる。
 - ・カリキュラムのそれぞれの構成に関連して教員と学生の比率を考慮すべきである。（Q 5.2.1）
 - ・教員の昇進の方針を策定して履行するべきである。（Q 5.2.2）

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員評価のエフォート欄に「教育」の項目があり、教員評価の一部として教育に関する評価が行われている。[資料 36] 今後は客観的な教育業務の評価について、検討を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 36 国立大学法人大分大学大学教員等評価実施細則

6. 教育資源

領域 6 における、「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、医学部基礎実習棟の改修工事に着手し、学生講義室等の設備・備品及びネットワーク環境の整備を行った。また、文部科学省「高度医療人材養成事業」により、主に診療参加型実習において PET/CT の臨床応用や高精度リアルタイム手術教育の導入など、さらなる学修環境の向上にも努めている。ハード面の整備だけでなく、臨床経験や実習、DX を活用した学習、さらには学生の研究成果発表の際の指導・支援や国内外の他教育機関との交流などのソフト面においても、学生や教職員の学修環境の整備を積極的に行っている。

今後も、医学教育専門家でもある医学教育センター長を中心に、現行の研究室配属の見直しやモデル・コア・カリキュラムに準拠した臨床実習の再構築などを行っていく必要がある。

6.1 施設・設備

基本的水準：適合

医学部は、

- 教職員と学生のための施設・設備を十分に整備して、カリキュラムが適切に実施されることを保障しなければならない。(B 6.1.1)
- 教職員、学生、患者とその家族にとって安全な学修環境を確保しなければならない。(B 6.1.2)

特記すべき良い点（特色）

- ・24 時間アクセスすることが可能な医学図書館が整備されている。

改善のための助言

- ・グループ学習室の拡充など、学修環境の整備をさらに進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部基礎実習棟の改修工事が完了し、新たな講義室を設置することにより、学習環境を整備した。[資料 37]

続いて、臨床研究棟東側の改修工事を開始し、教職員の教育・研究活動のベースとなる研究室及び実験室のリニューアルを図っている。[資料 38]

さらに、研修医の要望を受けて、卒後臨床研修センターのトイレの改修等、設備整備を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 37 教育実習棟改修事業概要書
- ・資料 38 総合研究棟改修Ⅱ事業概要書

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 教育実践の発展に合わせて施設・設備を定期的に更新、改修、拡充し、学修環境を改善すべきである。(Q 6.1.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・シミュレーション教育を推進するために必要な機器の導入や更新が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和5年度に採択された文部科学省「高度医療人材養成事業（医師養成課程充実のための教育環境整備）」においてPET-CTを更新した。これにより系統講義においてPET/CTの基礎について理解を深めた後、臨床実習（クリニカルクラークシップ）における検査の見学、画像読影などPET/CTの臨床応用を学ぶための診療参加型実習の実施が可能となった。[資料 39]

また、令和6年度文部科学省に採択された「高度医療人材養成事業（大学病院における医療人材養成環境の更なる高度化）」によって整備する地域連携型クラウドシステムや遠隔手術指導システムを学生教育にも活用し、学部生に対するシームレスな高精度リアルタイム手術教育を提供していく。[資料 40]

さらに、学生のみならず研修医や専攻医、さらには全医療人を対象としたシミュレーション教育の充実を図る目的に、「おおいた地域医療人材育成拠点（おおいたシミュレーションセンター）構想」および設置に向けてのワーキンググループを立ち上げ、議論を開始した。[資料 41]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 39 令和 5 年度大学改革推進等補助金「高度医療人材養成事業」交付決定通知書
- ・資料 40 令和 6 年度大学改革推進等補助金（高度医療人材養成事業）交付決定通知書
- ・資料 41 地域医療人材育成拠点（シミュレーションセンター）設置に向けての WG（案）

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 学生が適切な臨床経験を積めるように以下の必要な資源を十分に確保しなければならない。
 - ・ 患者数と疾患分類(B 6.2.1)
 - ・ 臨床実習施設(B 6.2.2)
 - ・ 学生の臨床実習の指導者(B 6.2.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・多くの医員・研修医が、屋根瓦方式の教育に関わっている。

改善のための助言

- ・学生が経験する患者数と疾患分類を把握し、必要に応じて学生が適切な臨床経験を積めるように臨床実習施設を整備すべきである。
- ・臨床実習の学内外指導者のための FD を広く実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

3 年次生に対して行っている診療所実習（シャドウイング）の協力医療機関を昨年度より新規に 2 施設加え、大分県下全 51 施設において行った。[資料 42]

5 年次生における滞在型地域医療実習をさらに実りのあるものとするために、学生に実習前後にアンケート調査を行い、その結果を地域医療学センタースタッフが実習受け入れ先の指導医にフィードバックした。また実習協力病院の指導責任者を集めた FD「大分の地域医療を支える医学教育戦略を考える会」を開催し、大分県での地域医療実習における教育レベルの向上を図った。[資料 10]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 42 令和 6 年度 3 年次生診療所実習「シャドウイング」報告書（抜粋）
- ・資料 10 「大分の地域医療を支える医学教育戦略を考える会」式次第

質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- 医療を受ける患者や地域住民の要請に役えているかどうかの視点で、臨床実習施設を評価、整備、改善すべきである。(Q 6.2.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・医療を受ける患者や地域住民の要請に役えているかどうかの視点で、臨床実習施設を評価、整備、改善することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

4 年次生の研究室配属において、研究の一環として、「地域医療における総合的な外科医に対するニーズに関する意識調査」と題し臨床実習施設でもある地域の基幹病院にて患者やその家族にアンケート調査を行い、それらを各医療機関にフィードバックしている。[資料 43]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 43 研究室配属 発表抄録

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合

医学部は、

- 適切な情報通信技術の有効かつ倫理的な利用と、それを評価する方針を策定して履行しなければならない。(B 6.3.1)
- インターネットやその他の電子媒体へのアクセスを確保しなければならない。(B 6.3.2)

特記すべき良い点（特色）

- ・ 情報通信技術に関する様々なシステムやアプリケーション等を有効に利用している。

改善のための助言

- ・ 安定したインターネットアクセスが確保できるよう、接続環境を整備すべきである。
- ・ 学生に対する情報セキュリティ教育を定期的かつ確実に実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

生成 AI の利用に関するリテラシー教育を行う準備を進めている。医学部挟間キャンパスだけでなく、本学の旦野原キャンパスとも協力し、全学的に統一された教育を行う予定である。

通信環境の大容量化に伴い、建屋間の光ケーブル配線を引き直すことが出来るように予算の要求を行っている。受理されれば、現在 1Gbps の建屋間通信を 10Gbps に増強する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 教員および学生が以下の事項についての既存の ICT や新しく改良された ICT を使えるようにすべきである。
 - ・ 自己学習(Q 6.3.1)
 - ・ 情報の入手(Q 6.3.2)
 - ・ 患者管理(Q 6.3.3)
 - ・ 保健医療提供システムにおける業務(Q 6.3.4)
- ・ 担当患者のデータと医療情報システムを、学生が適切に利用できるようにすべきである。(Q 6.3.5)

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 学生の電子カルテ記載の承認・登録システムについて、学生カルテの利用率向上の観点から検証することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

多数の学生が同時に学習管理システム（Moodle）にアクセスしても安定して十分な速度が担保できるよう、学生の利用状況を踏まえた上で学内 LAN の設定を見直し、整備を行なった。

学生・教職員共に、臨床医学情報のオンラインツールである「UpToDate」を利用できるようになっている。過去 12 か月間の登録ユーザー数は 75 名であり、使用履歴は合計 7654 回となっている。〔資料 44〕

今年度より新たに総合診療データベース「今日の診療 WEB」の購読を開始している。これまで過去 12 か月間に 183 回のログイン回数と 1326 分の利用時間を記録している。今後は、卒後臨床研修センターの研修医に対するオリエンテーションにおいて「今日の診療 WEB」を紹介し、各診療科等の実習等での活用を促す等、利用率の向上に繋げていく。〔資料 45〕〔資料 46〕

学内 LAN 経由のシンクライアント端末接続による電子カルテ利用を学外からも利用できるよう計画中であるが、多要素認証の導入が遅れており、計画は一旦保留となっている。

2028 年 1 月に病院情報システムの更新を予定している。この更新に向けて早期より情報を収集し、仕様策定作業を始める予定としている。

今年度より、高度人材育成事業の一環で匿名化患者データベースを構築中である。将来的には本データベース運用における学生利用に関する検討も開始する予定である。

ICTを活用した大分県全域の医療情報連携を目的とした「おおいた医療ネットワーク」の構築を進めている。これにより複数の医療機関を受診している患者の診療情報を 1 つにし、連携する施設間で相互の診療情報を閲覧・共有することが可能となる。〔資料 47〕

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 44 up to date 令和 6 年度閲覧実績
- ・ 資料 45 令和 6 年度今日の診療 WEB 利用統計
- ・ 資料 46 令和 6 年度（2024 年度）第 1 回医学図書館のあり方 WG 議事概要
- ・ 資料 47 おおいた医療ネットワーク構想と ID-Link の役割について

6.4 医学研究と学識

基本的水準：適合

医学部は、

- 教育カリキュラムの作成においては、医学研究と学識を利用しなければならない。(B 6.4.1)
- 医学研究と教育が関連するように育む方針を策定し、履行しなければならない。(B 6.4.2)
- 研究施設・設備と研究の重要性を明示しなければならない。(B 6.4.3)

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための助言

・ なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

学生が医学研究や開発に携わることへの奨励として行っている「Pre-ORPhDプログラム」に関して、学生に対してさらなる積極的勧誘を行う。

改善状況を示す根拠資料

・ なし

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・ 以下の事項について医学研究と教育との相互関係を担保すべきである。
 - ・ 現行の教育への反映(Q 6.4.1)
 - ・ 学生が医学の研究開発に携わることの奨励と準備(Q 6.4.2)

特記すべき良い点（特色）

・ 将来、学生が医学研究や開発に携わることの奨励と準備として、「Pre-ORPhDプログラム」を実施している。

改善のための示唆

・ なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

現在、4年次生に行っている研究室配属について、より早期から取り組むことを可能に

するため、研究室配属部会において、その開催時期や開催期間等の議論を行っている。また、前年度と同様に、学生を対象とした各研究室における研究内容の説明会を実施し、より早期から学生が興味をもって配属先を選択できるようにした。[資料 48]

研究室配属期間での研究成果を学外で発表する機会を 4 年次生に設けるため、希望者に対して、2024 年 12 月 15 日（日）に関西医科大学で実施された第 9 回 西日本医学生学術フォーラム 2024 への参加費用支援を同窓会（玉樹会）が行った。[資料 49] また、内科の講座において、研究室配属の研究結果を日本プライマリ・ケア連合学会において、配属学生が発表し、その支援を行った。さらに外科の講座においても、研究室配属学生の研究結果を論文化し、共著者として学生を加えている。[資料 50] [資料 51] [資料 52]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 48 令和 6 年度第 3 回研究室配属部会議事概要
- ・資料 49 西日本医学生フォーラムへの学生参加支援のお願い(推薦状)
- ・資料 50 第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集（抜粋）
- ・資料 51 第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会プログラム
- ・資料 52 大分県医学会雑誌第 29 巻

6.5 教育専門家

基本的水準：適合

医学部は、

- 必要な時に教育専門家へアクセスできなければならない。(B 6.5.1)
- 以下の事項について、教育専門家の利用についての方針を策定し、履行しなければならない。
 - ・カリキュラム発見(B 6.5.2)
 - ・教育技法および評価方法の開発(B 6.5.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・必要な時に教育専門家へアクセスできる体制をさらに充実すべきである。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

本年度より大学内の教育専門家が医学教育センター長を務めており、カリキュラム委員会や医学教育評価委員会にも全て中心的に携わっていることから、教員が必要時に非常にアクセスしやすい環境がとれている。

学内の教育専門家がメンバーを務めている医学教育カリキュラム委員会にてカリキュラムの作成・評価を行っている。

教育技法および評価方法の開発は、医学教育カリキュラム委員会、医学部教務委員会、および医学教育評価委員会の PDCA サイクルにて行っている。 [資料 53]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 53 基幹教員に対応する医学科新会議体制図

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 教職員の教育能力向上において学内外の教育専門家が実際に活用されていることを示すべきである。(Q 6.5.1)
- 教育評価や医学教育分野の研究における最新の専門知識に注意を払うべきである。(Q 6.5.2)
- 教職員は教育に関する研究を遂行すべきである。(Q 6.5.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センターの教員のみならず、医学教育評価委員や医学教育カリキュラム委員が学会報告や論文にて各自の研究成果を発表している。 [資料 54] [資料 55]

AI や DX を医学教育に活用するための研究を内科・外科の教員を中心に他大学とも連携して行っている。 [資料 56]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 54 第 49 回日本外科系連合学会学術集会抄録
- ・資料 55 大分大学教育マネジメント機構紀要 第 3 号 (2024 年 11 月)
- ・資料 56 第 62 回・2024 年・福岡/領域横断シンポジウム

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

医学部は、

- 以下の方針を策定して履行しなければならない。
 - 教職員と学生の交流を含め、国内外の他教育機関との協力(B 6.6.1)
 - 履修単位の互換(B 6.6.2)

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

大分大学グローバル感染症研究センターの共同研究費を活用し、国内外の研究者と 49 件(国内 35 件、国外 14 件)の共同研究を実施した。また、共同研究者によるセミナーを 9 回開催し、本学の教職員および学生が対面およびオンラインの両方で参加した。〔資料 57〕〔資料 58〕

6 年次生を対象にしたフィリピンのサンラザロ病院での臨床実習に 2 名の学生が参加した。また、4 年次生を対象にした研究室配属には、タイ王国マヒドン大学医学部およびタイ王国マハーサーラカム大学獣医学部から各 3 名の学生を、さらにチュラロンコン大学理学部から 4 名の学生を受け入れた。また、本学 4 年次生 3 名をタイ王国マヒドン大学医学部並びにチュラロンコン大学理学部に送り、研究室配属に参加させた。〔資料 59〕〔資料 60〕〔資料 61〕

改善状況を示す根拠資料

- 資料 57 令和 6 年度グローバル感染症研究センター共同研究公募結果
- 資料 58 令和 6 年度大分大学グローバル感染症研究セミナースケジュール
- 資料 59 令和 6 年度サン・ラザロ病院研修実施確認書
- 資料 60 2024 年度研究室配属 海外渡航者
- 資料 61 2024 年度研究室配属 海外からの受入者

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 適切な資源を提供して、教職員と学生の国内外の交流を促進すべきである。(Q 6.6.1)
- 教職員と学生の要請を考慮し、倫理原則を尊重して、交流が合目的に組織されることを保障すべきである。(Q 6.6.2)

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

大分大学教職員留学等支援制度を利用して、大分大学医学部、医学部附属センターの若手研究者が海外留学・研修・学会発表を行った。〔資料 62〕さらに前年度に引き続き、外国人留学生の宿泊施設を拡充するため、Wi-Fi 環境整備済みの「医学部外国人留学生等宿泊施設」の運用を継続している。

今年度も多くの大学・研究機関と交流協定を結び、外国機関から積極的に留学生・医師を受け入れている。また、研究室配属プログラムや6年次生の臨床実習において、希望する本学学生に対し海外への短期留学・実習を行った。〔資料 59〕〔資料 60〕

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 62 令和 6 年度教職員留学等支援制度の実績
- ・ 資料 59 令和 6 年度サン・ラザロ病院研修実施確認書
- ・ 資料 60 2024 年度研究室配属 海外渡航者

7. プログラム評価

領域 7 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、教務委員会、医学教育カリキュラム委員会、医学教育評価委員会の役割を明確にし、構成員の見直しを行った。

卒業時にディプロマ・ポリシーが達成できているかの評価を確実に行うことが今後の課題である。学生や教員からのフィードバックをもとに確実に改善につなげる仕組みの構築が必要である。また、卒業した学生の状況を把握するためのシステム作りについて、次年度ワーキング・グループで検討を開始する予定である。

医学教育情報分析室の体制について学内に共有し、情報分析室への分析依頼フォーマットを統一化した。CBT で不到達の学生が多かったことから、CBT 不到達のリスクを事前に把握できないか、過去の科目の成績と CBT 不到達の関連を医学教育情報分析室で検証した。また、教務委員会において、特定の科目の再履修者が多いことから、成績分布の適正性について検証を行った。個々のカリキュラムにおいて、教育と学生からのフィードバックを求めることはあるが、系統的にフィードバックを求め、分析し、対応するしくみが構築されていないため、次年度以降、そのしくみの構築を行う。

大分大学は令和 8 年度に創立 50 周年を迎えるが、その記念事業の開催にあたり卒業生とコンタクトをとることが多くなることが見込まれる。そのため、その機会に本学卒業生の実績調査等につながる仕組みを構築する予定である。

7.1 プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 教育プログラムの課程と成果を定期的にモニタする仕組みを設けなければならない。(B 7.1.1)
- 以下の事項について教育プログラムを評価する仕組みを確立し、実施しなければならない。
 - カリキュラムとその主な構成要素(B 7.1.2)
 - 学生の進歩(B 7.1.3)
 - 課題の特定と対応(B 7.1.4)
- 評価の結果をカリキュラムに確実に反映しなければならない。(B 7.1.5)

特記すべき良い点（特色）

・教育プログラムをモニタし評価するために「医学教育情報分析室」と「医学教育評価委員会」が設立されている。

改善のための助言

・試験成績の分析だけでなく、卒前医学教育アウトカムの達成の観点から、カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩や課題の特定と対応について、教育プログラムの評価を行うべきである。

・「医学部教育情報分析室」と「医学教育評価委員会」の活動を実質化して教育プログラムの評価を行い、その結果を「医学教育企画開発委員会」で検討し、カリキュラ

ムに確実に反映させるべきである。

- ・教育プログラム評価を行う組織は、カリキュラムの立案と実施を行う組織とは独立しているべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育情報分析室の体制について共有し、情報分析室への分析依頼フォーマットを統一化した。〔資料 63〕

CBT で不到達の学生が多かったことから、CBT 不到達のリスクを事前に把握できないか、過去の科目の成績と CBT 不到達の関連を医学教育情報分析室で検証した。〔資料 64〕

教務委員会において、特定の科目の再履修者が多いことから、成績分布の適正性について検証を行った。〔資料 65〕

教育の「内部質保証」は、教育の質を継続的に点検・改善する仕組みであり、大分大学医学部が掲げる使命を実効的に果たすための基盤である。令和 6 年度には、大分大学における教育の内部質保証に関する点検・評価作業が進められており、その結果は学生を含む医学部評価委員会で審議されることとなった。具体的には、本学のマネジメント組織である「教育マネジメント室内部質保証委員会」より、「内部質保証に関する規程」および「教育の内部質保証に関する方針」に基づき、教育プログラム・学生支援・学生受入の 3 点について点検（モニタリング）を実施するよう指示があり、その結果は教育評価専門委員会で審議された後、医学部評価委員会に附議された。〔資料 66〕

これらの議論と並行して、医学教育カリキュラムの改善および運営体制の見直しも視野に入れ、教育内容と体制の改善が積極的に進められている。「医学教育カリキュラム委員会細則」に基づき、カリキュラム編成の中核を担う体制が構築されており、学生を含む構成員による医学教育カリキュラム委員会では、教育内容の見直しや、各学年における科目負担および卒業試験の運用方針について継続的に議論が行われている。

とりわけ、卒業試験の取扱いは、大分大学医学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と直結する重要課題である。したがって、学生を含むステークホルダー間での意見を集約したうえで、カリキュラムから試験運用に至る一連の教育・評価プロセスが、ディプロマ・ポリシーと整合しているかどうかを検証する必要がある。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 63 教育情報分析室への業務依頼書
- ・資料 64 令和 6 年（2024 年）度第 2 回教育情報分析室会議議事録
- ・資料 65 2023 年度医学科科目の成績分布の適切性の検証
- ・資料 66 令和 6 年度第 1 回医学部評価委員会議事概要

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応しなければならない。(B 7.2.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・授業評価アンケートだけでなく、教育プログラム全体について、教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

個々のカリキュラムにおいて、教育と学生からのフィードバックを求めることはあるが、系統的にフィードバックを求め、分析し、対応するしくみが構築されていないため、次年度以降、そのしくみの構築を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- フィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発すべきである。(Q 7.2.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育プログラムに関する教員と学生からの系統的なフィードバックを分析し、教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

全学的に行っている授業評価アンケートを継続しているが、各科目の回収率が低く、

有用なデータが得られていない。回収率を上げるため、Moodle のコースの最後にアンケート URL を記載し、教員がアナウンスを行い、最後の 5 分を回答時間に充てる取り組みを行った。[資料 67]

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 67 令和 6 年度第 6 回教務委員会議事概要

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 以下の項目に関して、学生と卒業生の実績を分析しなければならない。
 - ・ 使命と意図した学修成果(B 7.3.1)
 - ・ カリキュラム(B 7.3.2)
 - ・ 資源の提供(B 7.3.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 自己評価による卒業時のアウトカム達成度調査だけでなく、在学中や卒業後の調査等で、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

大分大学は令和 8 年度に創立 50 周年を迎えるが、その記念事業の開催にあたり卒業生とコンタクトをとることが多くなることが見込まれる。そのため、その機会に本学卒業生の実績調査等につながる仕組みを構築する予定である。[資料 68]

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 68 令和 6 年度（2024 年度）第 15 回医学部執行部会議議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 以下の項目に関連して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

- 背景と状況(Q 7.3.1)
- 入学資格(Q 7.3.2)
- 学生の実績の分析を使用し、以下の項目について責任がある委員会へフィードバックを提供すべきである。
 - 学生の選抜(Q 7.3.3)
 - カリキュラム立案(Q 7.3.4)
 - 学生カウンセリング(Q 7.3.5)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・背景と状況、入学時成績に関して学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。
- ・学生の実績の分析を使用し、カリキュラム立案、学生カウンセリングについて責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地元出身者枠学生について、高度医療人育成講座が面談を行った。キャリア支援等について、地元出身者枠プログラム WG で検討を行った。地域枠学生については、引き続き地域医療学センターによる定期的な面談が行われている。〔資料 69〕

成績が思わしくない学生に対し、医学教育センターが面談を行っている。メンタル面を含めて医学的なサポートが必要と判断した学生は、保健管理センターでのカウンセリングや精神科受診につなげるため、医学教育センターと保健管理センターの協力体制を構築した。〔資料 70〕

支援を必要とする学生は増加しており、支援体制の見直しが必要である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 69 第 2 回医学科地元出身者枠プログラム WG 議事概要
- ・資料 70 令和 6 年度（2024 年度）学生の情報共有について議事概要

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：適合

医学部は、

- ・ 教育プログラムのモニタと評価に教育に関わる主要な構成者を関与させなければ

ならない。(B 7.4.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 「医学教育評価委員会」には、幅広い学年の学生を含むべきである。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

主要な構成者として、大学のみならず関係省庁などが含まれることが求められている。今後、検討を行う必要がある。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- 広い範囲の教育の関係者に、
 - ・ 課程および教育プログラムの評価の結果を閲覧することを許可すべきである。(Q 7.4.1)
 - ・ 卒業生の実績に対するフィードバックを求めるべきである。(Q 7.4.2)
 - ・ カリキュラムに対するフィードバックを求めるべきである。(Q 7.4.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 広い範囲の教育の関係者に、課程および教育プログラムの評価結果の閲覧を許可することが望まれる。
- ・ 広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績、カリキュラムに対するフィードバックを確実に求めることが望まれる。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

創立 50 周年事業とともに、卒業生の実績に対するフィードバックを得るしくみを構築する予定である。 [資料 68]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 68 令和 6 年度（2024 年度）第 15 回医学部執行部会議議事要旨

8. 統轄および管理運営

領域 8 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、医学部入試委員会、医学教育カリキュラム委員会、医学部教務委員会、および医学教育評価委員会に、助教以上のすべての教員が参画して医学教育に関する PDCA サイクルを回し、これらを医学教育統括会議(MEDIC)が統括するようにした。このうち医学教育評価委員会では、各年次生の学生も委員となり、学生の意見を取り入れるようにしている。

教学におけるリーダーシップをとる機関である医学部執行部会議では、医学部の果たす役割と未来のあるべき姿を踏まえた「医学部ビジョン 2024」を策定し、到達目標および取り組むべき課題を具体的に教員に明示し、実行している。

また、医学部独自の財源として、外部資金（受託事業・寄附講座・補助金）の獲得に積極的に取り組み、これらを教員の人的資源や教育資源に活用している。

今後も引き続き、大分大学医学部、大分県行政、大分県医師会とが「三位一体」となり大分県地域医療の課題に取り組み、地域医療の充実・発展に寄与していく必要がある。

8.1 統轄

基本的水準：適合

医学部は、

- その統轄する組織と機能が、大学内での位置づけを含み、明確にしなければならない。

(B 8.1.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

医学部入試委員会、医学教育カリキュラム委員会、医学部教務委員会、および医学教

育評価委員会にて、助教以上のすべての教員が医学教育に関する運営を行っている。また、これらとは独立して、医学教育統括会議(MEDIC)が上記組織を統括している。[資料 53]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 53 基幹教員に対応する医学科新会議体制図

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 統轄する組織として、委員会組織を設置し、下記の意見を反映させるべきである。
 - ・ 主な教育の関係者(Q 8.1.1)
 - ・ その他の教育の関係者(Q 8.1.2)
- 統轄業務とその決定事項の透明性を確保するべきである。(Q 8.1.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

委員会組織を医学教育カリキュラム委員会、医学部教務委員会、および医学教育評価委員会にて構成し、医学教育に関する PDCA サイクルを回している。医学教育カリキュラム委員会および医学教育評価委員には各年次生の学生も配し、学生の意見を取り入れるようにしている。[資料 53] [資料 16] [資料 71] [資料 72]

各委員会における決定事項については、必要に応じて随時ホームページに公開し、透明性を確保している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 53 基幹教員に対応する医学科新会議体制図
- ・資料 16 令和 6 年度第 1 回医学教育カリキュラム委員会議事概要
- ・資料 71 大分大学医学部医学教育評価委員会細則
- ・資料 72 大分大学医学部医学教育カリキュラム委員会細則

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準：適合

- 医学教育プログラムの策定と管理に関する教学における執行部の責務を明確に示さなければならない。(B 8.2.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

大分大学医学部の理念、教育目的および教育目標の達成に向け、令和 6 年度には「医学部ビジョン 2024」が策定された。この策定にあたっては、教授会が中心となり、教職員からのフィードバックを反映して最終版が完成された。

2024 年度のキャッチフレーズは公募により、「One Team Oita 2.0 ～ 到達度の『見える化』から『実行』へ」と決定された。このフレーズが示すとおり、大分大学医学部の教職員が組織の枠を越えて連携し、掲げた目標に対する到達度を客観的に評価・モニタリングした上で、確実に実行に移していくという強い意志が込められている。

「医学部ビジョン 2024」では、医学科の使命を具体的かつ実行可能な施策レベルに落とし込み、とりわけ以下の観点において使命との強い整合性を有している。

- グローカルな人材育成：地域および国際社会を視野に入れた教育・研究・入試方針
- 質の高い教育・評価システム：OSCE、CBT、JACME への対応および教育の DX 化
- 問題解決・探究型医師の育成：研究室配属、大学院改革、研究支援体制の整備
- 地域貢献・社会連携：地元枠支援、自治体・産業界との連携推進

また、ビジョン 2024 において掲げられた目標のうち、「使命と学修成果」と密接に関連する主な項目は以下のとおりである。

全人的医療・倫理観・人間性の育成

- 地域に根差し、世界と伍するグローバルなプロフェッショナルの育成
 - 学科間協力体制に基づく多様性のある開かれた教育環境の整備
 - チューター制度を活用した学生支援体制の強化
 - 地元出身者枠で入学した学生への支援ワーキングの設置による教育体制の強化
- 専門的知識・技術と科学的思考力の習得

- 臨床実習前教育および臨床実習の充実
- 医学教育モデル・コア・カリキュラムへの的確な対応
- 研究室配属における管理体制の見直し
- CBT および OSCE の公正な実施体制の構築
- JACME 年次報告による教育活動の振り返りと改善
- 試験体制（本試・再試・追試等）の見直しと運用改善

生涯学習と問題解決能力の育成

- 教育の DX 化（AI・ChatGPT・オンデマンド・シミュレーション教育の活用）
- FD による教育能力の開発と評価
- 学修支援部会の活動継続（医師国家試験合格率の維持・向上）

研究分野における科学的思考・探究心・医療の質向上への貢献

- 大学院改革に伴う基礎・臨床・学科間・部局間の連携研究体制の構築
- 「知の拠点」として世界に通用するイノベーションの創出
- 若手研究者の育成（論文作成支援、修業年限内修了率の向上、社会人大学院の推進）
- AMED・JST 等の外部研究資金の獲得および大学発ベンチャーの支援
- 地域課題に応える産学連携・自治体連携の強化

また、「大学の構成員ならびに医療および保健に関わる分野の関係者に対して、学部の使命をさらに周知し、理解を求めるべきである」との指摘を受け、医学部ビジョン 2024 では以下の施策により国際化と広報活動を強化し、社会とのつながりを拡大している。

- 国際交流の推進および再活性化
- ホームページの英語化およびプロモーションビデオの活用

本学医学部が策定した「医学部ビジョン 2024」は、理念や教育目的を現場で具体的に実現するための実効的な指針であり、教育・研究・社会貢献の各側面において、達成すべき目標と取り組みを明確に示している。これにより、学部全体が共通の方向性を持って連携・協働し、到達度の可視化とその先の実行を通じて、医学教育の質的向上と地域・国際社会への貢献を着実に果たしていくことが期待される。今後も継続的な自己点検・改善を通じて、ビジョンの実現に向けた歩みを確かなものとし、次代の医療を担う人材の育成に取り組んでいく必要がある。〔資料 73〕〔資料 01〕

改善状況を示す根拠資料

- 資料 73 大分大学医学部執行部会議細則

- ・資料 01 （部外秘）医学部ビジョン 2024

質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- 教学におけるリーダーシップの評価を、医学部の使命と学修成果に照合して、定期的に行うべきである。(Q 8.2.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・医学部使命と学修成果に照合して、教学におけるリーダーシップの評価を定期的かつ確実に遂行すべきである。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

「医学部ビジョン 2024」において、教員の教育能力の評価方法の見直しを課題の一つとして明示し、FD を実行した。 [資料 01]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 01 （部外秘）医学部ビジョン 2024

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準：適合

医学部は、

- カリキュラムを遂行するための教育関係予算を含み、責任と権限を明示しなければならない。(B 8.3.1)
- カリキュラムの実施に必要な資源を計上し、教育上の要請に沿って教育資源を分配しなければならない。(B 8.3.2)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

運営交付金の収入増加のために、科研費獲得件数 UP に向けた学内のエキスパートによる指導プロジェクトやセミナーの実施などの取り組み、および論文数増加へ向けた支援を開始した。〔資料 34〕

学修環境を向上させるため、老朽化した学生講義室の設備・備品を整備するための経費として、学部予算から 4,763 千円、後援会費から 3,866 千円を措置した。今後も教育関係予算の確保に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 34 科学研究費補助金獲得のための「7人の侍」プロジェクト

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 意図した学修成果を達成するために、教員の報酬を含む教育資源配分の決定について適切な自己決定権をもつべきである。(Q 8.3.1)
- 資源の配分においては、医学の発展と社会の健康上の要請を考慮すべきである。(Q 8.3.2)

特記すべき良い点（特色）

- ・大分県内 8 市の委託事業として「内科医療人材育成事業」を受託し、教育資源として活用している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

医学部独自の財源として、外部資金（受託事業・寄附講座・補助金）を獲得し、これらの資金の一部を教員の人的資源に充当し、教育資源に活用している。今後も引き続き新たな財源を獲得し、教育資源への活用を図る。〔資料 74〕〔資料 75〕

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 74 令和 6 年度受託事業一覧表（人件費含む事業のみ抜粋）
- ・資料 75 寄附講座設置状況

8.4 事務と運営

基本的水準：適合

医学部は、以下を行うのに適した事務職員および専門職員を配置しなければならない。

- 教育プログラムと関連の活動を支援する。(B 8.4.1)
- 適切な運営と資源の配分を確実に実施する。(B 8.4.2)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・教育プログラムと関連の活動を支援する事務職員を十分配置すべきである。

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

医学教育センターと学務課のミーティングを最低でも毎月1回は行い、問題点を共有する取り組みを本年度より開始した。[資料76]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料76 令和6年5月医学教育センター打合せ概要

8.5 保険医療部門との交流

基本的水準：適合

医学部は、

- 地域社会や行政の保健医療部門や保健医療関連部門と建設的な交流を持たなければならない。(B 8.5.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・大分県医師会長や大分県福祉保健部長などが参加する「医学教育統括会議（MEDIC）」を設置し、地域医療の充実・発展について議論している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

大分県地域医療対策協議会や地域卒卒業医師配置調整会議、さらには大分大学内科医療人材育成会議を定期的に開催し、大分大学医学部、大分県行政、大分県医師会とが三位一体となり大分県地域医療の課題に取り組んでいる。 [資料 77][資料 78][資料 79]

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 77 令和 6 年度第 2 回大分県地域医療対策協議会
- ・ 資料 78 令和 6 年度地域卒卒業医師配置調整会議
- ・ 資料 79 大分大学医学部内科医療人材育成会議委員一覧

質的向上のための水準：適合

医学部は、

- スタッフと学生を含め、保健医療関連部門のパートナーとの協働を構築すべきである。
(Q 8.5.1)

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動，改善内容や今後の計画

HPV ワクチンのキャッチアップ接種率向上を目的に、大分大学の学生サークルが大分駅等で啓発活動を行った。その際に大分県・大分市・別府市・由布市等に働きかけ、ワクチン接種医療機関の広報に協力した。 [資料 32]

また、大分県地域医療の課題を共有しより協力して取り組むことを目的に、今後、大分大学（医学部長および病院長）と大分県福祉保健部、大分県医師会（医師会長）にて「大分県における地域医療等に係る懇談会」を発足させる予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 32 総合診療サークル OICOS の活動報告

9. 継続的改良

基本的水準：適合

医学部は、活力を持ち社会的責任を果たす機関として

- 教育プログラムの教育課程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学修環境を定期的に見直し、改善する方法を策定しなくてはならない。(B 9.0.1)
- 明らかになった課題を修正しなくてはならない。(B 9.0.2)
- 継続的改良のための資源を配分しなくてはならない。(B 9.0.3)

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・学修成果、評価ならびに学修環境の見直しを定期的に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部の使命を達成すべく、その具体的指針として「医学部ビジョン 2024」を定め、そのうちの教育の領域において、医学部の教育ビジョン・学科共通の到達目標、さらに各学科の到達目標、取り組むべき課題を具体的に明示し、実行した。[資料 01]

これから社会が要請する大分大学医学部の使命と合致したものなのか、そうでないのであればどうあるべきか、について大学の構成員である教職員、学生のみならず、医療と保健に関わる分野の関係者とも協議する場を設ける予定である。

行動科学の体系的なカリキュラム作成に向けた WG が始動した。低学年からのプロフェッショナルリズム教育にも着手している。[資料 07] [資料 08]

「大分の地域医療を支える医学教育戦略を考える会」を開催し、医学教育に関わる教員・執行部メンバーと教育関連病院幹部が一堂に会し、学生の地域志向性を高める教育方略、臨床実習と地域医療体験の融合、地域医療に携わるロールモデルの提示方法などについて、活発な意見交換がなされた。[資料 10]

一方で、診療参加型臨床実習において、より学生が積極的にチームの一員として参加できる体制の構築や、主要な診療科で十分な実習期間を確保することには課題が残っている。次年度は最優先でこの課題に取り組む必要がある。加えて臨床実習の現場での多面的な評価のシステムの構築にも取り組むことが必要である。

卒業時にアウトカムを達成できているかどうかの評価について、現状のアウトカム達成評価では不十分であり、その評価について次年度検討を開始する。

教育の継続的改良のため、令和 5 年・6 年度に文部科学省「高度医療人材養成事業」に採択され、教育に関わる資源の更新、新規導入を行った。[資料 39] [資料 40] 今後も外

部資金獲得、寄附講座の設置等で人的・物的資源の確保を行う。

学修に支援が必要な学生への支援体制を構築しているが、支援を要する学生が増えており、その支援体制の見直しも必要である。

教学のリーダーシップをとる医学部執行部会議において、毎年医学部ビジョンを策定し、目標と取り組むべき課題を具体的に教員に明示、振り返りを行っている。教育における PDCA サイクルを回し、教育の改善につなげる取り組みを今後も継続する。[資料 01]

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 01 (部外秘) 医学部ビジョン 2024
- ・資料 07 心理学・行動科学カリキュラム検討の打ち合わせ(令和 6 年度第 1 回) 記録
- ・資料 08 プロフェッショナルリズム講義資料
- ・資料 10 「大分の地域医療を支える医学教育戦略を考える会」式次第
- ・資料 39 令和 5 年度大学改革推進等補助金「高度医療人材養成事業」交付決定通知書
- ・資料 40 令和 6 年度大学改革推進等補助金(高度医療人材養成事業) 交付決定通知書